

『レストラン紹介』 第28回

ADOLPHO (アドルフォ)

今回は、Parque Dez de Novembro (通称 Parque Dez) 地区にある ADOLPHO (ステーキ屋) へ行って来ました。

金曜日(06/Jul)の夕刻7時過ぎでしたが、早速オーナーの Adolpho Oliveira さん (60歳) にお話を伺いました。

サンパウロで農業を勉強し、マナウスへは1982年に農業をする為に来たが、農業よりも工業の方が盛んで驚いたそうです。

当時は、工業団地の名だたる企業が、Tarumã (タルマン地区) で農園を所有し、そこへ植物、果物の苗や野菜の種、馬、牛の家畜等を卸す仕事をする傍ら、バスを移動式レストランに改造し、各農園関係者へ Picanha (ピッカーニャ) 定食の販売もしていました。

その後、農園業のパートナーと意見が合わなくなり、ADOLPHO 号 (移動式レストラン) で、1990年代に、現在あるアリーナスタジアム近辺で営業する事になります。その後、資金が出来た2011年に現在ある ADOLPHO (ステーキ屋) の場所を購入して、今に至ります。母親もサンパウロでレストランを経営していたので、自然の流れだとか・・・。

ちなみに、その当時使っていた ADOLPHO 号は、2006年～2010年まで倉庫で保管していましたが、錆がひどくなり廃車にしたとの事です。

さて、収容人数300人の Adolpho さんのお薦めメニューは、以下の3品です。

• Picanha Angus R\$80.00

Ao Ponto (ミディアムレア) でしっかりと焼き上げられた Picanha です。塩も適度に効いており、どちらかと言うと Picanha 素 (す) の味です。Angus 牛と言う事もあり、脂身もそのまま美味しく頂く事が出来ました。お薦めです。

**• Bife Ancho Wagyu R\$109.00**

Ao Ponto (ミディアムレア) でしっかりと外側を焼いて、中身はレアな状態で給仕されて来ました。さすがは、和牛です。Picanha とは違う牛肉の味があり、舌触りもステーキを食べていると言う食感があります。お薦めです。



・ Costela BBQ R\$32.00

こちらは、ポーク・スペアリブですが、BBQソースがお店特製ソースで美味しく、焼き具合も硬くもなく、生でもなく、R\$32.00の金額からするとボリュームがありお得感があります。お勧めです。

その他にサイドディッシュとして、ブロッコリーライス、ファロファ、ヴィナグレッチのセット (R\$27.00) を頼みました。ブロッコリーライスは、ニンニクが効いており食が進みます。ファロファ、ヴィナグレッチも他店に引けを取らない鮮度の良いものでした。

またメインディッシュのお肉には、2種類のソースが用意されており、一つは、ニンニクとオリーブオイルの合わせ物、もう一つは、チリとピリ辛玉ねぎとの合わせ物、どちらを付けてもおいしく頂く事が出来ました。



そして最後に、Cheese cake de Oreo チーズケーキ (R\$10.00) と Torta de Limao レモンタルト (R\$10.00) を頂きました。



チーズケーキは、冷えた状態でサーブされ、Oreo ビスケットがまぶされております。とても美味しかったです。

またレモンタルトも肉料理の後には、さわやかなデザートとなります。こちらもおいしかったです。

スーパーマーケット PATIO の隣にある TOREADOR (ステーキ屋) とメニューがかぶるものもありますが、味は同等と思います。ADOLPHO は、オーナーの Adolpho さんが具合を見計らって、各テーブルを回り、挨拶がてらお店のサービスについて、聞いて回っています。オーナーの来客に対するおもてなしを感じます。



今回は、男二人でしたが、レストラン紹介の為、敢えてメインディッシュ3品注文し、R\$378.40と割高になりました。ボリューム的には、さすがに、3品は多目で、食べ切れなかったものは2つに分けて、持ち帰りました。

何れにしろ、お薦めできるレストランの一つです。

営業は昼、夜共に年中無休でブッフエルタイルはありません。

個室はありませんが、プライベートな会話を求めなければ、社用にも使える味とアットホームな雰囲気があります。

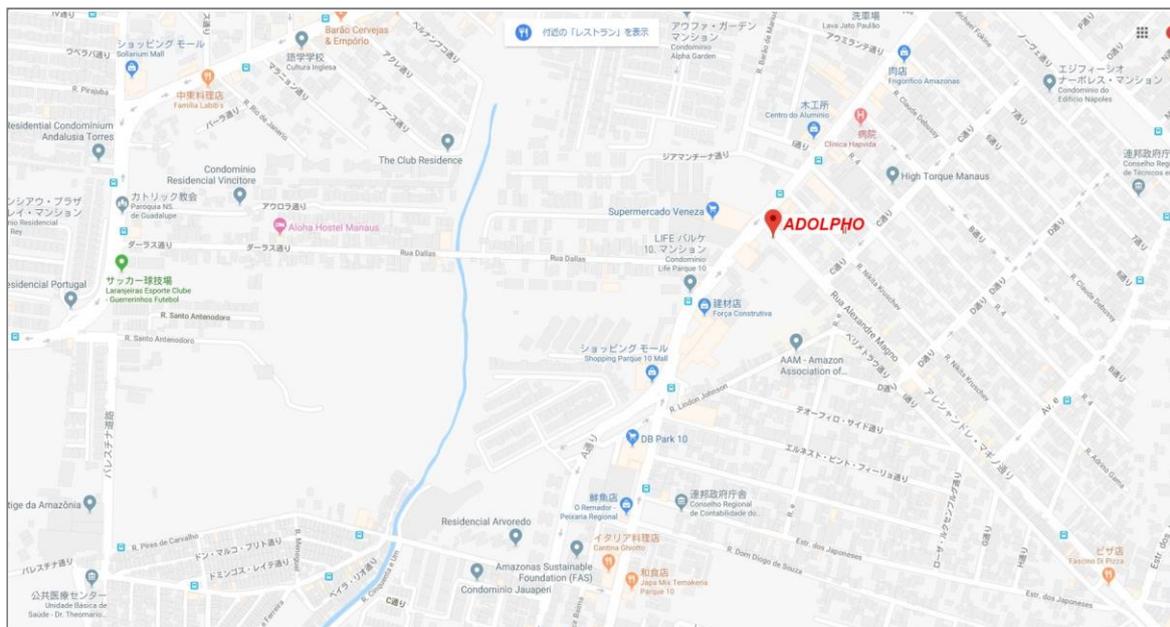
どうぞ、ご家族で、社用でご利用下さい。

広報企画委員 齊藤清之

所在地: Avenida Tancredo Neves, 920 – A – Parque Dez de Novembro
(スーパーマーケット VENEZA の前)

営業時間: 日曜～木曜 12:00～23:00、 金曜・土曜 12:00～00:00

TEL: (92) 3307-7777



※ 本インタビューは2018年7月6日に実施されたものです。